

機関番号：12613

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2009～2010

課題番号：21730221

研究課題名（和文） ソ連・ロシアにおける地域工業化過程の歴史的計量分析

研究課題名（英文） Historical Quantitative Analysis on Regional Industrialization in the Soviet Union and Russia

研究代表者

雲 和広 (KUMO KAZUHIRO)

一橋大学・経済研究所・准教授

研究者番号：70314896

研究成果の概要（和文）：

1897年ロシア帝国第一回（最終回）人口センサスの年齢別・男女別・地域別人口統計、同じく地域別の職業別人口統計データベースを作成し終えると共に、1926年ソビエト第一回人口センサスの年齢別・男女別・地域別人口統計と地域別の職業別人口統計データベースを完成させた。これは電子媒体で、広く利用可能なものとした。ロシア人口統計に関する研究は海外でも注目され、ロシア科学アカデミー地理学研究所主催のシンポジウム、そして大韓民国高麗大学主催のシンポジウムにおいて招待講演を行った。

研究成果の概要（英文）：

As a fruit of this research project a data base of 1897 Population census of the Russian Empire by age, sex, region and profession was established. Data for 1926 the 1st Population census of the Soviet Union by age, sex, region and profession was completed also, and both data sheets are made available through the Net for public usage. The results of this study are quoted by the Gapminder Project as a source of Database for Russian demography.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,800,000	540,000	2,340,000
2010年度	1,500,000	450,000	1,950,000
年度			
年度			
年度			
総計	3,300,000	990,000	4,290,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：経済学・経済政策

キーワード：ソ連，ロシア，地域経済，歴史的計量分析，人口

1. 研究開始当初の背景

本研究は、ソ連・ロシアにおける地域間労働力配置の変化と産業立地との同時性を鑑み政府主導による地域開発の限界と新たな展望を見出すことを試みるとともに、（労働及び資本という）生産要素移動費用・集積の経済と地域経済成長との相互関係を、西欧諸国とは対局的な事例と捉え得るロシアを対象とした実証分析を進める事で明らかに

することを意図した。

中央計画に基づく経済運営を行っていたソ連では、その労働力配置・産業への投資等も中央政府の意向を如実に反映したものとなっていたことは広く知られる。これは政府主導による工業化の極端な形であると見ることができる。それが与えた帰結を鑑みることにより、政府による開発政策のあるべき方向を、欧米及び日本等の経験とは異なる側面

から展望することができるであろうと考えた。

1999年にロシアで施行された「情報公開法」により、旧ソ連地域経済に関する子細な統計が公開され始めた。これまで旧ソ連の統計については、物量データのみの記述が氾濫し、価額表示の資料が決定的に不足していることが分析の大きな障害となっていた。しかしながらこれにより、本分野の飛躍的進展が期待される。だがそれらの資料はほぼ未整理のままであり、この『ソ連閣僚会議内部資料』の検索、データ整理、そしてその分析がロシア・旧ソ連経済を対象とした実証分析の大きな課題となっていたのである。

2. 研究の目的

これまでの研究で見てきたソ連・ロシアにおける人口移動＝労働供給の変化と産業立地との同時性を鑑み政府主導による地域開発の限界と新たな展望を見いだすことを試みるとともに、(労働及び資本という)生産要素移動費用・集積の経済と地域経済成長との相互関係を、西欧諸国とは対局的事例と捉え得るロシアを対象とした実証分析を進める事で明らかにしようとした。

『ソ連閣僚会議内部資料』に基づく地域統計の再構築とその分析は、これまで統計の取得可能性が分析の妨げとなってきたソ連・ロシア研究の状況を打破するものである。こうした統計はソ連時代には公開されていなかったものであり、その資料的価値は計り知れない。本研究は、非常に希薄であった旧ソ連およびロシアにおける地域経済の現代経済学的分析に関する間隙を埋めることを企図しており、今後のロシア経済研究全般に大きく寄与することであろう。

旧ソ連・ロシアを対象とすることの意義の1つは、その経験の特異性である。最初に指摘した通り、極端な事例であればこそ、政策の果実が顕著な形で現れることを想定することが出来よう。中央政府が主導する都市開発・地域開発にはおのずから限界が存在するのであり、その実践してきた政策の帰結は広く諸外国の参考ともなり得るものである。そうした視点から鑑みるならば旧ソ連・ロシアの経験は、幾多の全国総合開発政策という形で誘導的経済計画を示したものの、それが必ずしも顕著な成功を収めるには至らなかった我が国に対しても、その都市地域開発政策の立案過程において示唆を与えうるものである。そしてまた我が国の対移行諸国支援政策の策定に際しても、支援対象国の有する経済構造がその過去からの経路に依存していることは自明である。広く知られていない、しかし決定的な影響を与えた歴史的経験を学ぶことは不可欠であると言えよう。

3. 研究の方法

実証分析では、上述のとおり近年制定されたロシアの情報公開法に基づき「ロシア国立経済文書館」で公開されるようになった『ソ連閣僚会議内部資料』『ソ連中央統計局内部資料』を調査し、データ整理とその一次データに基づく計量分析とを行うことにより、旧ソ連における地域経済構造の変遷を、歴史的かつ定量的に明らかにすることを課題とした。

「ロシア国立経済文書館」における文書館資料の収集とそれに基づくデータベースの作成を行った。さらに連邦統計局・雇用局の地方支部にてソビエト時代の立地政策ヒアリングやサーベイによる実態把握に努めた。獲得したデータによる地域経済モデルの構築を行った。モデル設計においては、交通費用の高さと集積の経済性とを同時に勘案した。極端な政府主導の開発が押し進められたソ連・そしてその政策が潰えた新生ロシアにおける地域経済動態を検討することにより、開発政策の有効性を探ったものである。

『ソ連閣僚会議内部資料』はある程度収集が進められているが(於一橋大学経済研究所資料室)、依然として資本データ・産業分類別就業者数データが圧倒的に欠けている。このことを鑑み、国内にて収集可能な統計の獲得を残さずに行い、かつ「ロシア国立経済文書館」にてTurina, E. A. 館長の協力の下、公開されたソ連機密文書の収集を進めた。さらに現地調査において、かつての中央計画局に所属していた地方統計局の職員に対するインタビューを敢行し、それにより、地方における労働力配置と産業配置政策の実情把握に努めた。また、試論的分析を開始し、予測される研究成果の方向性を確認しつつ計画を進めた。本研究課題は大規模なものであるため、データ入力には研究補助者に常時依頼し、研究担当者は現地調査とデータの解析を行った。成果はこれまでに研究担当者が示してきた研究経過同様、着実に国内諸学会・国際学会及び諸雑誌にて公開していった。

「ロシア国立経済文書館」館長 E. Turina 氏については幾度となく一橋大学に招聘し、これまでも密な連携を図っており、協力を得ることは極めて容易であった。またロシア科学アカデミー社会政策研究所人口分析センター(モスクワ)長 S. Ryazantsev 氏から協力を得て、氏の助手及び大学院生より助力を受けて調査に当たり、データ入力においても同様の協力を戴いた。さらに極東・ウラジオストクではロシア科学アカデミー太平洋地理学研究所(ウラジオストク市)所長 P. Baklanov 氏に協力を戴いた。ロシア連邦雇用局・統計局等での現地調査ではこれらの方々へ研究協力者確保の為の助力を賜った。

4. 研究成果

1897年ロシア帝国第一回(最終回)人口センサスの年齢別・男女別・地域別人口統計, 同じく地域別の職業別人口統計データベースを作成し終えると共に, 1926年ソビエト第一回人口センサスの年齢別・男女別・地域別人口統計と地域別の職業別人口統計データベースを完成させた。これは電子媒体で公開し, 広く利用可能なものとした。Web サイト内に設置している(下図並びに研究担当者によるデータアーカイブ公開サイト <http://www.ier.hit-u.ac.jp/~kumo/RusChild/data.htm> 参照)。



人口統計の推計結果は International Council for Central and East European Studies スtockホルム大会で報告を行った。ロシア人口統計に関する研究は海外でも注目され, ロシア科学アカデミー地理学研究所主催のシンポジウム, そして大韓民国高麗大学主催のシンポジウムにおいて招待講演を行った。

帝政期データ・ソ連政府アーカイブ資料から作成した現行ロシア連邦領域の長期人口統計系列は Google 社の大規模データアーカイブプロジェクト “Gapminder World” において, 19世紀から現代までに渡るロシアの出生率のデータソースとして利用されるに至ったものである。

具体的な研究業績については下記記載の通りである。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計5件)

- ① 雲和広, 「タジキスタンの国際労働移民と海外送金」, 『経済研究』, 第62巻第2号, 2011年, pp.113-128. (査読有)
- ② KUMO, Kazuhiro, Fertility Trends in Russia: Viewed through Micro-Data and Demographic Structure, *Japanese Slavic and East European Studies*, vol.31, 2011, pp.81-92. (査読有)
- ③ 雲和広, 「ロシアの人口問題—出生動向を中心に—」, 『ユーラシア研究』, No. 43, 2010年, pp.27-32 ([特集 II ロシア人口危機の現在] 巻頭論文). (査読無)
- ④ 雲和広, 「ロシアにおける出生規定要因: マイクロデータによる接近」, 『経済研究』, 第61巻第1号, 2010年, pp.1-17. (査読有)

上記論文は一橋大学機関リポジトリで公開している。

<http://hermes-ir.lib.hit-u.ac.jp/ir/index.html>

- ⑤ KUMO, Kazuhiro, Экономика Российского Дальнего Востока и Северо-Восточная Азия (Economic Situations in the Russian Far East and North-East Asia), in *Japanese Slavic and East European Studies*, vol.29, 2009, pp.27-48. (査読有)

[学会発表] (計11件)

- ① KUMO, Kazuhiro, “Determinants of Childbirth in Russia: A Micro-Data Approach”, *Association for Slavic, East European and Eurasian Studies*, Westin Los Angeles Hotel, United States, November 18, 2010.
- ② 雲和広, “Determinants of Childbirth in Russia: A Micro-Data Approach”, ロシア東欧学会, 天理大学, 2010年10月24日.
- ③ KUMO, Kazuhiro, “Migrants from Tajikistan: Quantitative Aspects through Micro-Data”, *Workshop ‘Two Asias’*, organized by the University of North Carolina, ICS Hitotsubashi, Kanda, Tokyo, October 2, 2010.

- ④ KUMO, Kazuhiro, “Explaining Fertility Trends in Russia, Natural Resource Development”, *Symposium ‘Population and Environment in Russia’*, organized by Institute of Geography, the Russian Academy of Science, Morozovka Hotel, Moscow Oblast, Russian Federation, September 13, 2010.
- ⑤ KUMO, Kazuhiro, “Determinants of Childbirth in Russia: A Micro-Data Approach”, *European Association for Comparative Economic Studies the 11th Bi-annual Conference*, Hotel Derpat, Tartu, Estonia, August 27, 2010.
- ⑥ KUMO, Kazuhiro, “Long-Term Population Statistics For Russia, 1867-2002”, *ICCEES VIII World Congress*, Stockholm city conference hall, Stockholm, Sweden, July 28, 2010.
- ⑦ KUMO, Kazuhiro, “Demographic Situations and Development Programs in the Russian Far East and Zabaikalye”, *Symposium ‘Risks and Opportunities in Siberia and the Russian Far East for Sustainable Energy Development’*, Humanities Korea 1st International Conference, Institute of Russian and CIS Studies, Incheon Memorial Hall, Korea University, Seoul, South Korea, June 26, 2010.
- ⑧ KUMO, Kazuhiro, “Determinants of Childbirth in Russia: A Micro-Data Approach”, *Invited Lecture read at the Institute of Russian and CIS Studies*, Korea University, Seoul, South Korea, June 25, 2010.
- ⑨ KUMO, Kazuhiro, “Long-Term Population Statistics For Russia, 1867-2002”, *American Association for the Advancement of Slavic Studies National Convention*, Marriott Boston Hotel, Boston, the United States, November 12, 2009.
- ⑩ KUMO, Kazuhiro, “Russian Shockwave: Some Comments”, *‘International Workshop on Global Shock Wave: The Asian Pacific Discussion’*, ICS Hitotsubashi, Kanda, Tokyo, October 3, 2009.
- ⑪ 雲和広, 「中央アジア地域の人的資源と社会状況」, シンポジウム『中央アジア移民管理と国際協力』, 富山国際会議場, 富山市, September 13, 2009.

〔図書〕 (計4件)

① KUMO, Kazuhiro, Explaining Fertility trends in Russia, *Natural Resource Development, Population and Environment in Russia*, Japan Foundation & Institute MIRBIS, pp.69-77, 2010.

② KUMO, Kazuhiro, Explaining Fertility Trends in Russia// Россия и страны Северо-восточной Азии: Вопросы экономического сотрудничества, под. ред. Татаркина, А.И., Институт экономики Уральского отделения РАН, Екатеринбург, стр.19-27, 2010.

③ 松野周二・雲和広, 「国境周辺の地域経済と発展計画」, 『中ロ経済論』, 大津定美・松野周二・堀江典生編, ミネルヴァ書房, 第1部第3章, pp.35-64, 2010年.

④ 雲和広, 「中央アジア地域の人的資源と社会状況: ロシアとの経済連関」, 『現代中央アジア・ロシア移民論』, 堀江典生編, ミネルヴァ書房, pp.3-30, 2010年.

〔その他〕

ホームページ等

<http://www.ier.hit-u.ac.jp/~kumo>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

雲 和広 (KUMO KAZUHIRO)

一橋大学・経済研究所・准教授

研究者番号: 70314896

(2) 研究分担者

該当なし

(3) 連携研究者

該当なし